

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
第13回部会

協議記録

日時：令和2年12月16日（水）14：30～16：45

会場：大館市北地区コミュニティーセンター 別館2階 多目的室

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 第13回部会 出席者名簿

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	森林組合	大館北秋田森林組合	森林整備課長	阿部 昌宏	再造林①
2	素材生産者	(有)阿部林業			欠
3		(有)畠山造林			欠
4		(有)花田造材部			欠
5		(有)伊東農園	部長	佐藤 保	再造林②
6		(有)新林林業	総括部長	赤石 勝正	再造林①
7		(有)山田造材部	代表取締役	山田 一成	再造林②
8		(株)山一林業			欠
9		石上木材			欠
10		小林林業			欠
11		(有)佐栄林業			欠
12		(有)中田工業			欠
13		(株)石川組	代表取締役社長	島崎 祐男	再造林①
14		苗木生産者	秋田県山林種苗協同組合北秋田支部	支部長	黒澤 良勝
15	農事組合法人上仏社営農組合				欠
16	製材・加工事業者	遠藤林業(株)			欠
17		(株)沓澤製材所			欠
18		九島木材(株)			欠
19		藤島木材工業(株)、藤島林産(株)	代表取締役社長	藤島 真砂子	秋田スギ
20		ニツ井パネル(株)	社長	鈴木 稔	秋田スギ
21		古河林業(株)	所長	福森 卓	バイオ
22	ティンバラム(株)	工場長	高橋 聡	秋田スギ	
23	木材需要者	大館曲げわっぱ協同組合	理事長	柴田 昌正	秋田スギ
24	木質バイオマス事業者	北秋容器(株)			欠
25		ホルター秋田(株)	経営企画部部长	花田 元	バイオ
26			経営企画部次長	渡辺 寛	バイオ
26	K Sウッドソリューション(株)			欠	
27	木材流通事業者	物林(株)	資材グループ長	田口 慎二	秋田スギ
			国産材営業室	関口 祐之	再造林②
			国産材戦略室	齋藤 政子	再造林①
28	学識経験者	秋田県立大学木材高度加工研究所			欠
29	市村	大館市	林政課長	古川 泰幸	事務局長
			林政課長補佐	小棚木 信晴	司会
			林政課木材産業係主査	赤坂 祐幸	再造林(苗木)
			林政課木材産業係主任主事	千葉 泰生	秋田スギ
			林政課木材産業係職員	安部 千夏	
			林政課森林整備係主査	安部 貴洋	再造林①
30	北秋田市	副主幹	藤田 学	再造林②	
		主事	長岐 英泰	秋田スギ	
31	上小阿仁村	主査	田村 勇輝	バイオ	

大館北秋田地域林業成長産業化協議会委託事業者

番号	名称	役職	氏名	備考
1	森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社	代表取締役	高田 克彦	再造林(苗木)、ファンリテーター

大館北秋田地域林業成長産業化協議会オブザーバー

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	行政機関	米代東部森林管理署	署長	一ノ宮 秀和	
			森林技術指導官	吉川 浩人	
			主任森林整備官(資源活用)	片岡 雄	
			森林整備官	木村 博臣	
2	米代東部森林管理署上小阿仁支署	支所長	後藤 敏		
		総括治山技術官	有馬 俊英		
3	秋田県農林水産部	主幹(兼)班長	斎藤 正喜		
		主幹	木村 明憲		
4	秋田県北秋田地域振興局	主幹兼班長	工藤 純一		
		副主幹	小笠原 信幸		

第 1 3 回部会では、「令和 2 年度事業進捗状況」、「令和 3 年度協定フィールド」、「各部会テーマの意見交換」について協議を行いました。

【協議内容】

(1) 令和 2 年度事業進捗状況について

①大館北秋田地域林業成長産業化協議会<事務局>

・資料に添って説明。

○協定フィールドの実施状況について<総務部会 部会長>

- ・ 1 0 月上旬に 2 社請負で 3 社施業（1 社：3. 13ha、2 社：8. 12ha）
- ・ 3. 13ha：10/27 伐採完了、8. 12ha：11/23 伐採完了。
- ・ 作業方法・導入人員・熟練度など各社違いが見られ、興味深かった。
- ・ 結果的には、早く事業開始していれば植栽まで終われたと思うが、コロナ禍で先が見えない中での決定だったので仕方がない。

○販売状況について<総務部会 副部会長>

- ・ 12/14 時点で約 4, 000 m³販売済み、今週末で納入も終わるため最終実績もほぼ同じ。
- ・ 当初心配していた合板工場の受入れ制限が 1 0 月以降徐々に緩和され、中間土場への仮置きが必要なくなった。
- ・ 今回のフィールドから県外の L V L 工場へ納入、加工後、宮城県仙台市内の民間企業社屋で内装材として使用される予定。

○木質バイオマス利用促進部会事業について<事務局>

・資料に添って説明。

②大館市

・資料に添って説明。

③B e P A（森林資源バイオエコノミー推進機構株）

○会員ヒアリングについて

- ・ モデル事業終了後の継続検討の意向調査をもとに、部会長および副部会長を中心に話を伺っている状況。残り数社ご協力いただきたい。

○苗木マニュアル作成について

- ・ 1/8 苗木生産事業者を集まってもらい、マニュアル作りに向けた作業を始める。

○都市部アンケート結果所見について

・資料に添って説明。

◇質疑

<BePA>

Q. 5mの長尺物を少量だが納めていたようだが、何に加工するためか。

<総務部長 副部会長>

A. 米国向け輸出用フェンス材に使用。7または8フィートの2丁取り。

(2) 令和3年度協定フィールドについて

- ・全体の流れ<事務局>
- ・ゾーニング、生産目標等について<総務部会 部会長>
- ・資料に添って説明。

◇質疑

- ・なし

(3) グループワーク

①グループワークテーマの説明<事務局>

②グループワーク

◇再造林推進部会①

○協定フィールドのR2取組実績ふりかえり（伐採事業）

- ・昨年度と比較し、生産効率（搬出）低下。地形など諸条件が異なる状況下、要因は採材の種類増による。（R元年度2種類、R2年度5種類）
- ・各社独自スタイルで取組むも、種類増に対応するため労力・経費のかかり増しとなる。生産効率低下するも単価上乗せを検討してほしい。
- ・予算の透明性を確保してほしい。予算の流れが分からない。事業費等に関し、よりオープンにしてほしい。
- ・小さいフィールドは事業費かかり増し（固定経費かかり増し）
- ・見積合わせでいいのか。

○R3案（ゾーニング・生産目標）の意見交換

- ・急峻のため事業費がかかり増し。収支計画が成り立たず、収入間伐に適する山ではない。事業費上乗せを要望。（R3フィールドは、言わば「手入れの仕事」。収支を合わせるためには手入れ分をプラスしてもらわないと。）
- ・R3年6月林専道供用開始後、ぬかるみで直ぐは利用できないと思う。
- ・時期が素材生産請負事業と重なり、R3フィールドに力を傾注できない事業者が多数。

◇再造林推進部会②

○協定フィールドのR2取組実績ふりかえり（伐採事業）

- ・ 現地の作業条件は良く、作業はし易かった。
- ・ 合板向けは、8. 12ha のフィールドが多かった。
- ・ 5 m の採材の指示があったが、あまり良い木が無かった。採材の予定に合わせフィールドを探すほうが良いのでは。
- ・ 早く作業を開始したかったが、着手が遅くなった。

○ R 3 案（ゾーニング・生産目標）の意見交換

- ・ R 2 年度の伐採後の植栽は問題ないと思う。下刈りは場所による。
- ・ R 3 年度のフィールドの条件があまり良くなく、実施する業者はいないのではないか。
- ・ 費用が掛かり増しになるので、作業条件が良くない現場の費用は増額してほしい。

◇ 再生林推進部会（苗木）

○ 苗木マニュアルについての意見交換

- ・ 育苗スケジュールと説明のフォーマットを早めに用意し、イメージを掴んでもらう。
- ・ 育苗方法は多くの事業者が行っている方法はいくつか記載しておき、それ以外は記入してもらうこととする。
- ・ 1/8 苗木生産事業者が集まった際、その場で説明コメントを記録する人が欲しい。
- ・ 近隣で苗木生産している人へも声を掛けてみる。

◇ 秋田スギ・認証材利用促進部会

○ パンフレットデザイン採用コンセプト案(2 択)の決定と企業シート構成の意見交換

- ・ 案 1 がインパクトある。
- ・ 表面左側の数値等については分かりやすく簡潔にしたほうが良い。
(構成については今後協議していく)
- ・ 案 2 のイラストも他に無いパンフレットなので面白いと思う。
- ・ 案 1 と案 2 を両 A 面にしてはどうか。

○ 4 年間の事業のふりかえりと最終年度 R 3 の取り組みについての意見交換

- ・ 3 市村で木材利用の機会があれば報告していただく。
- ・ 大径材の利用について進展がない。

◇ 木質バイオマス利用促進部会

○ 需要先確保に関する意見交換（小型木質バイオマス発電など）

- ・ 会員企業の本社でバイオマス発電施設があるが、売電もしようかと思っている（熱を利用してチップも乾燥させている）。2 号機もあり、電力事業者に申請しようと思っているが、OK であれば 2 台稼働できる。
- ・ 大館市の事業者で 4 基設置しており、2~3 月には一気に稼働したい。残りは建設中で、最終的に 1 2 基を目指している。

○最終年度 R 3 の取り組みについての意見交換

- ・出荷量は今後伸びる見込みだが、消費量が伸び悩む。消費量目標は公共施設が対象という事もあり厳しい。

③とりまとめ共有

◇再造林推進部会① <再造林推進部会 副部長>

○協定フィールドの R 2 取組実績ふりかえり（伐採事業）

- ・採材が R 元年度 2 種類から R 2 年度 5 種類に増え、手間が掛かり生産効率低下。
- ・採材種類が増えるのであれば、作業単価も上乘せも検討していただきたい。
- ・予算の透明性を確保していただきたい。

○R 3 案（ゾーニング・生産目標）の意見交換

- ・収入間伐が成り立つのか疑問が残る。

◇再造林推進部会② <再造林推進部会 部長>

○協定フィールドの R 2 取組実績ふりかえり（伐採事業）

- ・再造林推進部会①とほぼ同じ意見である。
- ・やはり取り掛かりが遅かった。
- ・現場としては、作業効率と単価に見合った仕事をする。

○R 3 案（ゾーニング・生産目標）の意見交換

- ・山の条件が悪く間伐が多いため、単価にもよるが手を挙げる事業者がいないのでは。
- ・今年度の少しでも早い時期にプレーヤーを決めるべき。

◇再造林推進部会（苗木） <BePA>

○苗木マニュアルについての意見交換

- ・1/8 苗木生産者会議では、近隣で苗木生産している方にも声を掛ける。
- ・森林総研で出している苗木スケジュール表に沿った形で作成予定。
- ・2月に皆さんに情報提供できるようにしたい。

◇秋田スギ・認証材利用促進部会 <秋田スギ・認証材利用促進部会 部長>

○パンフレットデザイン採用コンセプト案（2 択）の決定と企業シート構成の意見交換

- ・デザインは案 1 で決定。

○4 年間の事業のふりかえりと最終年度 R 3 の取り組みについての意見交換

- ・大径材の利活用は 4 年間継続協議してきたが、なかなか新たなアイデアが出ない。
- ・協議会の中で大径材を挽く人がおらず、利活用に向けた製品化ができない。

- ・地域内の材を地域内で利用するPR展開も必要。待っているだけではいけない。

◇木質バイオマス利用促進部会<木質バイオマス利用促進部会 副部会長>

○需要先確保に関する意見交換（小型木質バイオマス発電など）

- ・バイオマス発電（現在4基から年度内7基に）により、出荷量目標はクリア見込み。
- ・公共施設消費量において大館市役所分が減ってしまうのが残念。

○最終年度R3の取り組みについての意見交換

- ・公共施設への導入の働きかけが必要。

4 その他

○オブザーバーより

<米代東部森林管理署上小阿仁支署>

- ・今年度事業の生産量最終見込みは、当初計画42,000 m³に対し40,000 m³であった。
- ・造林事業は、当初計画にプラスして除伐70 m³を追加発注した。
- ・立木販売は、当初計画210,000 m³に対し57,000 m³の見込み。
- ・今後も情報共有しながら進めてまいりたい。

<秋田県農林水産部林業木材産業課>

- ・県としては、人口減少により住宅需要が減る中で住宅以外の建物への木材供給、海外への製品輸出の取り組みも進めている。
- ・長期的観点でこの地域でのターゲットを絞って活動することも一つのあり方と考える。

○情報提供（アドバイザーより）

資料のとおり

○事務局より連絡

- ・次回全体部会予定 令和3年2月25日（木）午後
大館市北地区コミュニティセンター 別館 多目的室
- ・幹事会予定 令和3年3月18日（木）午後
大館市役所比内総合支所 3階 301会議室

～閉会～